

❖ 東北地方での採用事例

秋田市立八橋運動公園の整備事業に採用



秋田市立八橋運動公園



●施工／平成17年5月 ●施工面積／9,950㎡

秋田市立八橋運動公園は秋田市役所に隣接し、秋田市の中心部に位置する大規模な総合運動公園です。ここには陸上競技場や野球場、球技場、体育館が集中してそろっており、市民のスポーツ交流の中心として活躍しています。同運動公園の多目的広場は主に野球場として利用されており、平成17年5月、芝生部分の整備事業に当社JGS-CCグリーン

が土壌改良資材として採用されました。

同運動公園では平成19年の「わか杉国体」で、陸上競技場や球技場がサッカー競技のメイン会場に、野球場が高校野球のメイン会場となったほか、陸上競技場がサッカーの天皇杯の試合会場になるなど幅広く利用され、今後も活躍が期待されています。

ジャパングリーンシステム 製造／販売品目

- | | |
|---------------|--|
| ● JGS-CCグリーン | スポーツターフ・多目的芝広場等「循環型有機質土壌改良資材」(100%天然素材) |
| ● JGS-CCクレイ | クレイグラウンド・多目的広場等「循環型有機質土壌改良資材」(100%天然素材) |
| ● JGS-CCマルチング | 景観樹皮マルチング |
| ● ピートメリア | 屋上緑化・ガーデニング・プランター等「循環型有機質軽量土壌」(100%天然素材) |
| ● GB-2500 | グラウンド・多目的広場・公園園路舗装・未舗装道路等「表層安定剤」 |
| ● GS-ソイル | 園路・広場・法面舗装・防草等「環境配慮型固化舗装工法」 |

❖ 六義園のシンボル、枝垂桜の樹勢回復に採用

回復した枝垂桜が園内に江戸情緒を醸し出す

六義園(東京都文京区)



●施工／平成17年3月 ●施工面積／100㎡

六義園は江戸時代に五代将軍徳川綱吉の側近、柳沢吉保が設計・指揮し築庭した「回遊式築山泉水庭園」です。江戸時代の大名庭園を代表するもので、昭和28年に特別名勝に指定されています。

毎年3月下旬～4月初めの桜の満開時には大勢の人出で賑わいますが、特に園のメインシンボルである枝垂桜は、その見事な枝ぶり花色の美しさで多くの人を魅了してきました。しかし、長年根元が踏み固められ、根が酸欠状態を起こしたことにより近年樹勢に衰えが見られたため、平成17

年3月に樹勢回復工事を実施しました。作業には当社JGS-CCグリーンが土壌改良資材として採用されました。施工により土壌の透水性と通気性が改善され、例年通り見事に開花し、その後も順調に開花しています。

六義園では今年も枝垂桜の満開期に合わせて、ライトアップを行います。春の夜に往時の輝きを取り戻した枝垂桜をご覧になり、しばし浮世を忘れ、江戸情緒に浸って見るのも一興ではないでしょうか。

●六義園「しだれ桜と大名庭園のライトアップ」

日 時／平成21年3月19日(木)～3月31日(火)の毎日
開園時間／9:00～21:00(ライトアップは日没後から、最終入園は20:30まで)

❖ 島根県立サッカー場の芝床管理に貢献

JGS-CCグリーンを用いた土壌改良で、通気性・保水性が保たれる

島根県立益田サッカー場（島根県益田市）



●施工／平成12年5月 ●施工面積／9,750㎡

島根県立益田サッカー場は昭和53年3月に竣工し、昭和57年の「くにびき国体」ではサッカー競技のメイン会場として使われました。平成12年には大幅なリニューアルが行われ、芝床には当社JGS-CCグリーンが土壌改良資材として採用されました。

JGS-CCグリーンを用いたことにより、芝床の透水性・通気性が保たれ、また裸地になりづらいと評価を受けています。こうした順調な芝管理により、平成14年には5月～12月の8ヶ月130試合が実施されるなど、年間を通じて数多くの試合が実施され、広くサッカー愛好者に親しまれています。

❖ 日本陸連公認陸上競技場整備に採用

補助陸上競技場インフィールドのピッチ管理に貢献

等々力運動場競技場（川崎市中原区）



●施工／平成19年11月 ●施工面積／8,415㎡

神奈川県川崎市等々力緑地内にある等々力陸上競技場は、昭和41年の開設当初から、陸上競技をメインに市民が利用するスポーツ施設として活用されてきました。施設の老朽化対策と、平成20年6月の日本陸上競技選手権開催準備のため、平成19年9月～20年3月にかけて大規模改修工事が行われ、その際、インフィールドの芝張替え工事に当社JGS-CCグリーンが土壌改良資材として採用されました。

メイン会場とともに、前述日本陸上選手権など大規模大会の開催に加え、市民の陸上競技大会の会場などとして、活躍が期待されています。

❖ JGS-CCクレイを用いた県立高校の野球場整備事例

毎日の練習で球児を足元からサポート

弘前高校小沢野球グラウンド（青森県弘前市）



●施工／平成20年6月 ●施工面積／2,500㎡

青森県立弘前高等学校の小沢野球グラウンドでは、平成20年6月に内野の改修工事を行い、その際JGS-CCクレイが土壌改良資材として採用されました。そのほか全国各地の野球場でJGS-CCクレイを用いた改修工事が行なわれるなど、活躍の場が増えています。

改修されたグラウンドは、ハードな練習漬けの日々を送る球児たちの足元を支え、その成長を見守っています。

❖ 市民公園のゲートボール場の整備に採用

メンテナンスに優れ、市民の憩いの場となる

古津賀第4号公園（高知県四万十市）



●施工／平成18年2月 ●施工面積／2,530㎡

高知県四万十市の古津賀第4公園では、平成18年2月にゲートボール場として使用される広場の整備改修を行いました。整備に当たっては雑草を抑制し、水はけが良く雨の後でもぬかるまないコートを作るという目的で、当社JGS-CCクレイが土壌改良資材として採用されました。

施工後の関係者の評価は上々で、毎日のように足を運ぶゲートボール愛好家をはじめ、市民の憩いの場となっています。